

ご意見の内容及びご意見に対するご回答

意見提出元：株式会社 構造計画研究所

No	該当箇所	ご意見の内容	ご回答
1	<p>I - 3. スマートメーターが実現する機能(4) ～ 宅内通信機能～</p> <p>I - 3. スマートメーターが実現する機能(5) ～ セキュリティ～</p>	<p><意見内容></p> <p>スマートメーターの持つ宅内通信機能を利用して、以下に示す付加価値を提供する。</p> <p>1. 災害時情報伝達機能: 放送、携帯電話と並ぶ災害時の情報伝達網としての機能を付加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時、MDMS における操作1つで災害関連情報を各家庭に配信できる機能を追加。 ・各家庭の置かれた端末は HEMS を通じて情報を受信、音声などで注意を呼びかける。 ・安否確認、物資救援情報の伝達にも利用可能。 <p>⇒放送や携帯電話に比べてよりきめ細かな情報配信が可能。</p> <p>2. グリーンショップ評価機能: 省電力の取組みに対する評価を店舗に配信する機能を付加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗は政府(or 電力会社)のお墨付きデータを専用の端末に表示して消費者にアピールする。 <p>⇒評価値は刻々と変化するので省電力の努力は継続させなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価値を偽って表示するような悪用ができないよう、データの正当性をデジタル署名により証明する機能が必要となる。表示端末は PKI(公開鍵暗号基盤)を使って電力会社から送られてくる正しいデータのみを表示する。 	<p>将来の導入が見込まれるサービスに対しては、遠隔ソフトウェア更新により適宜、機能を追加できる仕様とします。現時点で想定が困難なサービスに対しても、サービス仕様が明確になった時点で、Bルートの活用も含め、実現可能かつ合理的な範囲で柔軟に対応します。</p> <p>具体的なサービスとしては、「電力使用量の見える化サービス」、「ネガワットアグリゲーションビジネス」、「高齢者等の見守りサービス」、「節電サービス・省エネアドバイス」等を想定しております。</p>

2	<p>Ⅲ．無線マルチホップネットワークのシステム概要</p>	<p><意見内容></p> <p>無線マルチホップネットワークは様々な事象に対するロバストネスを確保できているのか、シミュレーションによる徹底的な検証(ストレステスト)が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビルなどの建物が新たに建設される。あるいは災害等により崩壊する。 <p>⇒電波伝搬の状態が短期間に大きく変化して通信できなくなったり通信品質が大幅に低下したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中継端末が災害などにより同時に多数故障する。 <p>⇒マルチホップ経路の構築が困難となり、あるいは低品質の経路しか構築できなくなった場合、ネットワークの再構築が必要となり、多大なコストと時間を要する結果となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模な停電、その復旧に伴い通常とは異なる通信トラフィックが発生する。 <p>これらの検証を行うことにより、検証結果によっては必要ならば冗長さのより高い通信方式の採用による通信方式の改良を検討するなどする必要がある。常に独立した複数の経路が確保できることを前提とした高信頼のマルチホップ通信方式([1]など)と比較検討を行う。</p> <p><理由></p> <p>[1]岡田 啓, 和田 忠浩, 大内 浩司, 齋藤 将人, "無線マルチホップネットワーク複数経路符号化におけるハイブリッド ARQ 方式の一検討", 電子情報通信学会技術研究報告無線通信システム研究会, 2006</p>	<p>いただいた無線マルチホップネットワークの検証についてのご意見は、通信方式の選定評価やシステム設計時の参考とさせていただきます。</p>
---	--------------------------------	--	--